

由布市

議会だより



新成人の力強い誓いの言葉！

Contents

第4回定例会	2
議案質疑	4
委員会報告	6
視察報告	8
一般質問	9

No. 21
2011.1

発行／由布市議会
編集／議会広報編集特別委員会
事務局／☎ 097-583-1111

<http://www.city.yufu.oita.jp/gikai/gikai.html>

平成22年 第4回定例議会 が開かれました

<2010年12月8日～12月27日>

今定例会に提案された議員発議5件、議案16件、請願7件、陳情4件（内継続審査分2件）を審議しました。その結果、議案1件、請願2件を継続審査とし、陳情3件はそれぞれ、趣旨採択、継続審査、不採択とし、他を原案通り可決・採択としました。（審議内容については委員会報告に掲載）

今議会の 概要

議案の取り下げ並びに会期が延長

追加議案が教育委員会で審議されないまま提案されましたが、違法であるとの指摘があり、執行部もこれを認め、議案が取り下げられました。教育委員会審議後に再提案され、これに伴い会期も27日までと5日間延長されました。

国の経済活性化対策、1億3,302万6千円を追加

地方活性化・きめ細かな交付金、住民生活に光をそそぐ交付金、さらに、地方交付税の増加分も含め、一般会計補正予算（第7号）として2億2,093万1千円が提案され、湯布院国民宿舎宿泊棟と庄内中学校の庄和寮の解体、学校並びに市立図書館の整備や図書の購入事業、子宮頸がん等のワクチン接種事業などに充てられました。

由布市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正については継続審査

これは、教育委員の報酬が県内の他市より著しく低いため、県内の市の平均的な額に引き上げる改正ですが、他の委員報酬との均衡や、内容をさらに精査することから継続審査となりました。

条例制定・廃止

可決

由布市過疎地域自立促進基金条例の制定について

由布市立庄内中学校寄宿舎条例の廃止について

条例 改正

可決

由布市湯布院福祉センター条例の一部改正について

由布市立小学校の設置に関する条例の一部改正について

由布市民運動場条例の一部改正について

指定 管理

可決

由布市挟間高齢者等就業支援センターは「由布市シルバー人材センター」を指定管理者とするもの

西石松地区集会所は「西石松自治区」を指定管理者とするもの

補正 予算

可決

平成22年度由布市一般会計補正予算（第6号）

平成22年度由布市介護保険特別会計補正予算（第3号）

平成22年度由布市簡易水道事業特別会計補正予算（第3号）

平成22年度由布市農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）

平成22年度由布市水道事業会計補正予算（第2号）

工事請負変更契約

可決

平成22年度ゆふいん福祉センター建築主体工事請負変更契約の締結について
平成22年度由布院小学校新築（建築主体）工事請負変更契約の締結について

議員
発議

可決

「子ども・子育て新システムの基本制度案要綱」に基づく保育制度に反対し現行保育制度の拡充を求める意見書
地方選挙における候補者に関する情報の充実を図るための公職選挙法の改正を求める意見書
安心・安全な国民生活実現のため、防災・生活関連予算の拡充と国土交通省の出先機関の存続を求める意見書
北朝鮮による韓国領・延坪島への砲撃に抗議し政府に対し万全の危機管理体制機構を求める意見書
第三次男女共同参画基本計画における選択的夫婦別姓の推進に反対する意見書

<2010年10月26日>

第2回臨時議会 が開催されました

人事

同意
同意

監査委員の選任

議選の監査委員の欠員に伴い、田中真理子議員の選任同意を求めるもの。

教育委員会委員の任命

教育委員会委員の任期が11月18日で満了となるため、清永直孝氏を再任することに議会の同意を求めるもの。

専決
処分

承認

平成22年度由布市一般会計補正予算（第5号）

新型インフルエンザワクチン接種事業が医師会等との協議が整い、流行前の接種が必要なための専決処分。

<2010年11月24日>

第3回臨時議会 が開催されました

報告

承認

和解及び損害賠償額の決定

市道（天神山長野線）の管理瑕疵による事故についての専決処分の報告。

発議

可決
可決

由布市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正

条例
改正

可決

由布市職員の給与に関する条例の一部改正

由布市特別職の職員で常勤のものの給与に関する条例の一部改正

由布市教育委員会教育長の給与、勤務時間等に関する条例の一部改正

由布市職員の給与の特例に関する条例の一部改正

発議、条例改正ともに、人事院勧告による国家公務員の給与改定に準じて、期末手当、給料表の引き下げや扶養手当等の改正を行うもの。

議案質疑

由布市立庄内中学校寄宿舎条例の廃止について

Q (議員) 寄宿舎の廃止後はどんな利活用を考えているのか。建物を利用することのか。それとも解体して跡地を利用するのか。売却も考えているのか。
A (教育総務課長) 検討する。契約管理課と協議。

由布市特別職の職員で非常勤のもの
報酬及び費用弁償に関する条例の一部
改正について

Q (議員) 非常勤の職員の内なぜ教育委員のみ報酬を引き上げるのか。
A (総務課長) 平成20年の法改正時に引き上げるべきだったが今口に至った。

A（総務課長）市の人口や面積で比較すると杵築市、国東市、津久見市、白杵市になるが今回は杵築市を参考にした。
Q（議員）杵築市を参考にしているが東市を対象にしてもいいのではないのか。
A（総務課長）農業委員や消防団員も低いので検討していきたい。

由布市ゆふいん福祉センター条例の一部改正について

由布市立小学校の設置に関する条例の一部改正について

Q(議員) ついでに、外部の一般利用者が利用していいのか。外部の一般利用者が利用していいのか。**A**（福祉対策課長）利用条件は条例に定めています。市外の利用者は市長の許可がいる。

Q（議員）どもの通う小学校は任意か。挿間小学校に統合しても子供は校区編成は保護者：**A**（教育総務課長）地域と協議して決めるが、保護者の要望があれば区域外就学を認めている。**Q**（議員）統合計画では引き続き複式学級、1クラス学級についても廃校にしていくのか。**A**（教育総務課長）複式学級の解消、最も低い1クラスが編成できるように進めている。

Q(議員)上原サツカ一場は出来ないのか。湯布院スポーツセンターの料金設定との整合性は。
A(スポーツ振興課長)多目的に利用できるが、ラグビー場としてはボルダリングが出来ないので練習のみ。料金は変えていい。い。

平成22年度由布市一般会計補正予算 (第6号)

（議員）防衛対策費の内容は。
A（湯布院振興局長）米海兵隊の訓練
は、例年1月中旬から2月中旬まで日
出生台で行われる。由布市としては若
杉に、現地連絡事務所3人体制、湯布
院庁舎に対策本部2人体制で対応する。
Q（議員）由布院児童クラブ設計委託
費は。
A（子育て支援課長）これまで校舎内
にあつたが、小学校の建てかえに伴い
旧保健センター跡地に200m²の面積
で工事費300万円を予定している。
Q（議員）簡易水道の施設整備補助金
の内訳。

平成22年度由布院小学校新築（建築主体）工事請負変更契約の締結について

（農政課長）当初95頭分の予算を組んだが、すでに132頭捕獲しているので増額をお願いした。（議員）活力ある水田農業振興対策事業補助金が減額になつた理由。（農政課長）コンバインと田植機各一台の導入がトラクター1台に変更。（議員）中山間地域直接支払い交付金の内訳。（農政課長）3期対策で決算は2億

Q (議員) 畜産拠点整備の設計測量費は。**A** (環境課長) 湯布院町の槐木、挾間町の米山、庄内町の馬籠の各水道組合への補助金。(議員) 農政課長は庄内のカントリーパークの隣接市有地に60頭の牛を係留できる屋根つきの雨天検査場を計画している。由布の牛ブランド化推進事業費の内容。**A** (農政課長) 庄内産の種雄牛実穂安平と安平清の買い上げに伴い、これかで生まれた13頭の子牛を飼育していたが補助金は。(議員) 有害鳥獣捕獲事業の詳細説明は。

平成22年度由布市一般会計補正予算 (第7号)

A (議員) 一般備品の発注はどうなるのか。
A (教育次長) 一般備品は、入札を行つて発注する。

A (教育次長) 今回の補正は積み上がり予算計上でなく一定の枠配分という協議をした。

Q (議員) 非常備消防の修繕費の内訳は。A (防災安全課長) 防火水槽の水漏れ防止、工事、落石防止工事、フェンスの改修、消防車庫の天井補修等。

Q (議員) 幼稚園費の工事請負は、抜けも悪いが。園庭の水は園路だけか。園庭も含めて検討する。

A (教育総務課長) 園庭も含めて検討する。

Q (議員) 光をそぞろ交付金事業で今回児童福祉のDV対策を選んだ理由は。(子育て支援課長) 今回は要保護児童を対象に予算計上した。

Q (議員) 庄和泰は解体後普通財産にするといふことか。
A (教育次長) 解体を教育予算で行い、その後教育委員会から市長部局に移管して普通財産となる。

Q (議員) きめ細かな交付金事業と住民生活に光をそそぐ交付金事業の事業選択をどういうプロセスで行つたのか。
A (財政課長) 限られた時間で見積もる等の又は、公募によるもので、今何回

Q (議員) 平成22年度由布市一般会計補正予算(第7号)について、質問いたします。
A (総合政策課長) 本年7月に開催された議会の結論が出ていないのに解体をするのか。
A (防災安全課長) 宿泊棟は耐震診断の結果このままの利活用は危険なので取り壊し跡地について利用を検討する。
Q (議員) 消防団の法衣は、地域性のある名前を検討しているのか。
A (防災安全課長) 1市1団なので由布で消防団と協議したい。

由布市立小学校の設置に関する条例の一部改正について

Q (議員) 福祉向上目的の使用は無料。隣接するクアーゲュ温泉館の使用料金との整合性は。教育民生委員長) 健康福祉の増進用を図る目的が同一であれば無料になる。

由布市ゆふいん福祉センター条例の一
部改正について

Q (議員) 今後の利用計画と廃止許可について。教育民生委員長) 具体的な利用計画はない。国庫補助を受けているので文部科学省等の承認が必要。普通財産(議員) この条例で廃止になれば普通財産になるのか。教育民生委員長) 教育施設としての用途を廃止し普通財産になる。

由布市立庄内中学校寄宿舎条例の廃止
について

Q (議員) 平成16年の貸付けと家畜導入事業国費返納金との関連は。A (産業建設委員長) 平成16年度以降家畜導入事業がなかつたので導入資金の国と県費の分を返納するもの。Q (議員) 畜産の集合検査場の計画地を変更できないか。A (産業建設委員長) 場所については再考を求めた。Q (議員) 塚原のサイクリングの使用料は。A (産業建設委員長) 全額県の補助事務のため有料にできない。

委員長報告に対する質疑

由布市一般会計補正予算(第6号)

Q (議員) 由布市立小学校規模適正化期計画の二期計画が発表された元が、地元が一推進でなく、広く市民からのパブリックだかり検証し、二期計画に生かしていった

由布市一般会計補正予算(第7号)

Q (議員) この議案が取り下げられ再議論したのか。A (教育民生委員長) 教育委員会の責任の重さを考えて対処するように求めた。



由布市ゆふいん福祉センター条例の一
部改正について(賛成多数で可決)

反対討論・小林華弥子議員

隣接するクアーゲュ温泉館と福祉センターの料金設定が異なるので、利用者と現場が混乱する。健康福祉目的の利用には減免措置があるので同じ料金設定とする条例に直し3月議会で改め提案し4月1日から施行すべき。

由布市立小学校の設置に関する条例の
一部改正について

反対討論・西郡均議員

適正化推進計画そのものが問題。人放棄する発想が出來ないといふ教育目的のクアーゲュ温泉館でも利進木も再開する決断をし即時を少しだけいただいたい。

由布大分環境衛生組合議会報告

開催日 平成22年11月18日
場所 由布大分環境衛生組合会議室

■平成21年度由布大分環境衛生組合一般会計決算の認定

歳入総額7億3447万2342円、歳出総額6億8446万2651円で差引額5000万9691円が翌年度繰越額。歳出の主なものは、福宗清掃工場運営管理費負担金1億692万1070円。及び大分市リサイクルプラザ運営管理費負担金他4257万7112円の増額によるもの。認定。

■平成22年度由布大分環境衛生組合一般会計予算(第1号)

歳入歳出予算に、それぞれ3500万8千円を追加し、総額を7億1565万2千円とするもの。歳出では、衛生費129万2千円、予備費3337万8千円の増額。債務負担行為1億円の限度額を定める予算是、大分市野津原町地区一般廃棄物ごみ収集運搬業務を平成23年度から平成26年度までの業務委託として入札を今年度執行するため。

■発議第一号由布大分環境衛生組合議会会議規則の一部改正

地方自治法の一部改正に伴い、会議規則を改正したもの。可決。

大分県後期高齢者医療広域連合議会報告

開催日 平成22年10月19日
場所 大分第2ソフィアプラザビル

■平成22年度大分県後期高齢者医療広域連合特別会計補正予算(第1号)

にについて
予算総額1619億8163万2000円とするもの。承認。

7985万5000円増額し、予算総額1620億6148万7000円とするもの。可決。

■大分県後期高齢者医療広域連合職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正について

可決。

■大分県後期高齢者医療広域連合職員の育児休業等に関する条例の一部改正について

可決。

■平成22年度大分県後期高齢者医療広域連合一般会計補正予算(第1号)
にについて
予算総額8億6880万4000円とするもの。

可決。

■平成22年度大分県後期高齢者医療広域連合歳入歳出決算の認定について
認定。

総務委員会報告

平成22年度由布市一般会計補正予算（第6号）

歳入歳出に6億7874万4千円を追加し、総額を184億2975万2千円とするもの。臨時財政対策債、旧合併特例債、辺地債等の地方債補正後の総額は37億2405万3千円となる。基金繰り戻し4366万8千円を行つて財政調整基金残高は15億1752万4千円となる。

歳出の文書広報費の大分県重点雇用創出事業交付金を受けて行う由布市情報発信事業については、由布市民の雇用に努める。地域振興費の防火水槽撤去費について平成7年に土地所有者と地元の要望で作られた防火水槽を相続人が更地にすることを望むからといって全額公費で撤去することには検討を要する等の意見が出されたが賛成多数で可決すべきものと決定。

平成22年度ゆふいん福祉センター建築主体工事請負変更契約の締結について

由布市ゆふいん福祉センター条例の一部改正について

基礎工事中に出てきた転石の処理と移動ステージや可動間仕切り等完成後の有効活用を図るため1171万5375円増額の変更契約するもので総額は2億250万5100円となる。変更契約が安易に行われているなどの反対意見もあったが賛成多数で可決すべきものと決定。

平成22年度由布院小学校新築工事請負変更契約

民生費では民生・児童委員切り替えによる新任委員の県協議会への負担金53万円。衛生費では日本脳炎予防接種委託料の制度変更に伴い778万3千円の増額。

教育費では、挿間小学校耐震補強工事実施設計業

務に係る設計管理1210万6千円、地質調査費98万2千円。また自治公民館整備に588万5千円、湯布院総合運動場改修工事の3192万5千円が主なもの。賛成多数で可決すべきものと決定。

平成22年度由布市介護保険特別会計補正予算（第3号）

歳入歳出に73333万7千円を追加し総額を34億5038万6千円とするもの。介護サービス、介護予防サービス等の見込み額の増が主なもの。賛成多数で可決すべきものと決定。

歳入は、社会資本整備総合交付金4841万1千円、個体数調整捕獲事業補助金77万5千円、重点分野雇用創出事業交付金445万9千円、塚原観光協会へ10台を貸与するサイクリング事業費県補助金81万円等が主なもの。

歳出は、由布市畜産品評会場の測量設計247万8千円、シカのみを対象とした個体数調整捕獲事業補助金155万円、電動自動車10台購入費80万円等が主なもの。

審査した結果、

(1) 観光費の電動自転車の維持管理については貸与方法等の基準を明確にすること

(2) 畜産業費の測量設計委託料の予算計上には賛成であるが、畜產品評会場建設場所の検証が不十分であり、再考して委員会の理解が得られた後に執行すべきとの意見を付して賛成多数で可決すべきものと決定。

平成22年度由布市簡易水道事業特別会計補正予算（第3号）

歳入歳出に376万2千円を追加し歳入歳出予算の総額を歳入716万5375円増額の変更契約するもので総額は2億250万5100円となる。変更契約が安易に行われているなどの反対意見もあったが賛成多数で可決すべきものと決定。

福祉センター建て替えに伴い、位置及び使用料を変更するもの。

使用料については、本センターの目的内外の使用をしつかり把握して運営をして欲しいとの意見を付して賛成多数で可決すべきものと決定。

教育民主委員会報告

平成22年度由布市一般会計補正予算（第6号）

平成22年度由布市一般会計補正予算（第6号）

産業建設委員会報告

平成22年度由布市一般会計補正予算（第6号）

の締結について

由布市立小学校の設置に関する条例の一部改正について

平成22年度由布市農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)

来年度予算で取り付ける予定だった家具や家庭科室、理科室のテーブル等本体工事と密接に関連する付帯工事4152万4875円を追加変更するもの。総額は6億8277万7200円になる。賛成多数で可決すべきものと決定。

平成22年度由布市一般会計補正予算(第7号)

歳入歳出に2億2903万1千円を追加し、総額を186億5878万3千円とするもの。

歳入では地方交付税8268万8千円。国の緊急経済対策として地域活性化交付金が創設され、きめ細かな交付金として1億738万3千円。住民生活に光をそぞぐ交付金として2564万3千円。そのほか県の子宮頸がん等のワクチン接種交付金として1331万7千円が追加補正された。

歳入では3庁舎の修繕費450万円、国民宿舎宿泊棟の解体工事2千万円、消防各庁舎のトイレ改修222万8千円、消防団の法衣(はっぴ)購入費600万円、防火水槽等の修繕費282万5千円等が主なもの。委員から国民宿舎が廃止されて2年、当面の活用は迅速適正に行うこと、防火水槽の修繕については補助規定を早急に整備すること、また、白衣の購入は地域に密着した消防団活動に配慮することなどの意見が出された。

地域活性化交付金について政策決定システムや予算編成の考え方に対する改善が見られないといった反対意見もあったが賛成多数で可決すべきものと決定。

平成22年度由布市一般会計補正予算(第7号)



木暮小学校

平成22年度由布市水道事業会計補正予算(第2号)

歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ1993万5千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ1億3180万6千円と定めるもの。

この補正是、平成1～2年に挾間町三船地区で実施した3事業の借入金を、公的資金補償金免除繰上償還制度を活用し借り換えを行うもの。この制度を活用することによって約501万2千円の効果額となつている。賛成多数で可決すべきものと決定。

平成22年度由布市一般会計補正予算(第7号)

民生費では子宮頸がん等ワクチン接種業務委託料に2748万円が新規に計上。教育費では庄内中学校の「庄和寮」の解体に2950万円。各幼稚園・小中学校の工事費2500万円。修繕費1500万円を計上。学校図書購入費として878万円、図書館図書費982万6千円が主なもの。

平成22年度由布市一般会計補正予算(第7号)

歳出は、道路維持費で1500万円(各地域振興局に500万円)、住宅管理費で総額4250万円、この内訳は、緊急を要する市営住宅11件分の修繕費500万円、9件分の工事請負費3500万円と工事請負費に伴う設計監理250万円が主なもの。賛成多数で可決すべきものと決定。

視察報告

● 総務委員会視察研修報告 ●

期日 平成22年11月10日から
11月12日

○行財政の取り組みについて

【富山県小矢部市】富山県小矢部市は、全国自治体生産性ランキングにおいて、職員生産性コスト（労働コスト）部門で全国一位となつてゐる事から、行政運営及び、行財政改革の取り組みについて研究をした。

地方交付税の大額な減額など、厳しい財政状況の中、合併をせずに自力で財政再建を図ることを選んだ。市長をリーダーに職員一丸となり、二つのテーマを掲げ実行している。

一つ目は、「小さな市役所、質の高いサービス」とし、効果的な行財政経営と市民サービスの質的向上を目指す。二つ目は、「パートナーシップのまちづくり」市民と行政との協働、市民役のまちづくりを目指すもの。行財政改革のあり方、進捗状態について意見を述べる他に、市民の視点から行政外部評価を実施している。由布市も多いに学ぶことが多いと考えられた。

○本庁舎方式について

【石川県能美市】能美市は3町の対等合併で由布市と同じ分庁舎方式を採用していたが、今回、本庁舎方式に移行したことについて研修をした。本庁舎方式に決まった辰口庁舎は、



改革を実行するためには、ビジョンを明確に示し、市民と情報を共有することから始めなければならないと改めて認識した。

さらに、2年に一度「市民満足度調査」を実施し、今後のまちづくりビジョンに役立っている。由布市も、今後のまちづくりのために多いに参考にしたい。

合併当初から、位置や施設、規模的に新庁舎として望ましいことが、市民や議会で一定の理解をされていた。

また、3庁舎間の距離が近いこと、他の2庁舎が古いことなどで、辰口庁舎とは違うことが解った。

しかし、本庁舎方式後の行政の進め方について、議会や市民レベルで委員会を設置して、行政サービス、また向

上のあり方を議論、検討するなど、丁寧な取り組みが行われていた。

ささらに、2年に一度「市民満足度調査」を実施し、今後のまちづくりビジョンに役立っている。由布市も、今後のまちづくりのために多いに参考にしたい。

期日 平成22年11月8日から
11月11日まで

○特産品のブランド化について

【石川県加賀市】加賀フルーツランド今話題となつてゐる「ルビーロマンドウは全国で栽培生産されているが加賀市に於いても独自のブランド開発のため赤色で大粒のブドウを目標にして400品種以上の改良試験、研究を重ねた。この結果「ルビーロマンドウ」の品種が確立し市場で一房30万円の評価がなされた。栽培方法は企業秘密となつてはいるが特産品としてのブランド化が図られた先進事例である。

改革を実行するため地域住民の協力による景観形成基準を定め、これに基づいて電線の地中化や商店街の整備、1店舗2業種など施策を実施してきた。今では観光客も少しづつであるが戻つてゐるとのこと。この成果は商店街と旅館組合が一つの目的に添つて協力した結果であり、街づくりは市民の主体的な取り組みが最も必要と強く感じた。

○ゆげ街道街なか再生事業について

【石川県加賀市】加賀市役所山中庁舎

山中温泉はピーク時には330万人の観光客が来訪していたが大幅に減少し77軒あつた旅館が激減して商店街がシャッター通りとなつた。このため復活を目指して地元有志が独自の開発計画案を3枚の絵にまとめた。平成8年、県道拡幅改良工事に伴う地元協議が行われておりこの席で県知事に直接この独自の開発計画案を提示し助成の確約を得た。

この計画を実行するため地域住民の協力による景観形成基準を定め、これに基づいて電線の地中化や商店街の整備、1店舗2業種など施策を実施してきた。今では観光客も少しづつであるが戻つてゐるとのこと。この成果は商店街と旅館組合が一つの目的に添つて協力した結果であり、街づくりは市民の主体的な取り組みが最も必要と強く感じた。

● 産業建設常任委員会研修報告 ●



ゆげ街道

市政を問う

一般質問



二ノ宮健治 議員

市政を問う

一般質問

また、現在策定中の「第2次行財政改革大綱実施計画」を踏まえ、「選択と集中」の視点でメリハリのある予算編成を行いたい。

Q 合併により小さな補助金等が削られ、人のやる気や地域の活力が無くなっているのではないか、財政主導から市民本位の予算編成ができるいか。

A (市長) 限られた財源の中で、住民福祉を最優先に予算付けを行う。

由布市立図書館の将来像について

認知症高齢者の見守り及び支援の充実を



高橋義孝 議員

Q 挿間(市立図書館)、庄内、湯布院の3館がオンライン化され利用者も増加しているが、3館の今後の整備計画について。

A (市長) 市立図書館を拠点としたネットワークを整備する方向で、市民が利便性を用しやすい環境を整備していく。また、庄内・湯布院分館の位置等の問題は、「公共施設配置計画」の中で検討していく。

Q 「図書館の本が古くなつた」との声を聞くが、予算の削減で図書館の命である書籍の購入が出来ないのでないか。

A (市長) 改善していきたい。

23年度予算について

この1年間で質問したことの進捗状況は

Q 多くの地域において、消火栓ボックス等、資機材更新の時期を迎える。整備には2分の1の地元負担を伴うが、高齢化や住民の減少など自治区の運営も厳しいものがある。応分の負担は仕方がないと思うが、このまま本当に地域で補えるのか。

A (市長) これまでの取り組みがどうだったのか、改善していかなければならぬと思う。出来るだけ皆さん方の負担を少なくしていきたいという思いは強くある。高齢化等、大変になるとということを念頭に検討してまいりたい。

12月は23年度当初予算の編成時期である。市長の「予算編成方針」が示され、各部長、課長を中心に編成作業が始まる。「予算はまちづくりの設計図」と言われるよう、由布市の進む方向が決まる大切な作業である。

今回、市長が描いている由布市の設計図、並びに由布市立図書館の将来像について質問した。

Q 23年度予算編成方針の基本は。

A (市長) 昨年度に引き続き「地産地消と観光振興」「教育資質の向上対策」「高齢化と小規模集落対策」「子育て支援対策」「情報発信・交流連携」を重点施策として特別枠を設けて取り組む。

A (市長) 畜産品評会場は、23年度に建設を行うよう計画している。団塊世代の退職対応については交流会等を計画している。

Q この1年間で質問したことの進捗状況は

A (市長) 畜産品評会場は、23年度に建設を行っている。団塊世代の退職対応については交流会等を計画している。

Q 今、この1年間で質問したことの進捗状況は

A (市長) 改善していきたい。

Q 今、この1年間で質問したことの進捗状況は

A (市長) 改善していきたい。

Q 今、この1年間で質問したことの進捗状況は

A (市長) 改善していきたい。

その他、湯布院駐屯地との共存共栄について、宿舎の在り方について、国民保護計画について、教育行政について質問した。

消防施設整備補助の見直しを



佐藤郁夫 議員

■農業労働災害共済制度の創設について

Q 農作業中に負傷や障害等の人身事故が発生している。これらに対処するために由布市農業労働災害共済制度の創設を。

A (市長) 国の「農業者のための特別加入制度」や農協の共済制度への加入推進をしていく。零細農家の対策は、検討、研究していく。

A (市長) 答申の施策への反映は。重要な参考資料として活用していく。

Q 由布市庁舎方式検討委員会で検討した庁舎方式と本庁舎の位置についての答申の活用は。

A (市長) 意見を参考に庁舎方式を早期に見直したい。本庁舎の位置については、地域審議会の意見をいただいて早い段階で決断していきたい。

■医療の地域連携について

Q 小さな子ども（0～4才）の突発性高熱をだすことが多い、緊急時の対処がと連携して啓発のシステム化の計画は。 **A**（市長）夜間及び休日に、小児救急医療に対応できる医療機関の情報提供に努め医師会と連携を図り、かかりつけ医の推進や小児救急医療の普及啓発に努める。

■由布市連携型中高一貫教育の推進について

■由布市連携型中高一貫教育の推進に

Q 市内中学生全学年に由布高校の魅力が浸透していないのでは。
A (教育長) 3年生だけでなく、1、2年生にももつと由布高校を知つてもらう機会を作る取り組みを進めていく。

Q 中高一貫教育の入試制度のありかたの検討は。

A (教育長) 昨年から由布高校には十分検討してほしいと要請している。

■各種委員会開催後の答申等の活用について

A（健康増進課長）国の施策で肺炎球菌等のワクチン接種が今冬から「無料



甲斐裕一 議員

■今後の水路の管理運営方法について

A（市長）対象農家3656戸のうち1153戸で、加入率は32パーセント

Q 挿間地域の由布川水系には5つの水路がある。その中の三船水路は土地

（農政課長） 拒い手不足解消に向けては、集落営農・農事組合法人化を推進し、高齢化する農業経営の安定を図つていきたい。

ほかに、地域振興局の運営と予算について質問した。



古野井路

■戸別所得補償制度の加入率は、担い手不足の解消について

A（市長）土地改良区としての組織化が必要と思われる。現在、庄内町で実施している国、県費による「中山間総合整備事業」を、24年度から27年度にかけ、挿間、湯布院地域にも実施していきたい。

Q 一般開催された、いのちの循環を大切にする市民の集いで、庄内在住の「中西麻耶さん」の障がいを持ちながらのスポーツを通じた生き立ちの講演を聞き感動した。今後の奮闘を期待したい。



国民宿舎

A (市長) 由布市の企業誘致の振興についてお尋ねする。特に一般企業と農業参画について、また、大分県と企業立地協定を行った湯布院の畜産企業立地について、その後の対応は。

A (市長) 企業誘致は雇用や定住促進など地域の活性化に役立つと考えている。19年に企業等立地条例を制定しているが、現在1社の説明する。引き続き大分県と連絡を密にして情報収集と発信をしてまいる。また、農業参画企業立地は、一期工事は終わり第二期工事が23年3月に完了の予定。湯布院の肥育センター進出計画は、進出企業から今回の予定地での建設を断念する旨の連絡を受け、地元の関係者には通知すると同時に理解を頂くよう説明する。

Q 1点目の由布市の企業誘致の振興についてお尋ねする。特に一般企業と農業参画について、また、大分県と企業立地協定を行った湯布院の畜産企業立地について、その後の対応は。

A (市長) 企業誘致は雇用や定住促進など地域の活性化に役立つと考えている。19年に企業等立地条例を制定しているが、現在1社の説明する。引き続き大分県と連絡を密にして情報収集と発信をしてまいる。また、農業参画企業立地は、一期工事は終わり第二期工事が23年3月に完了の予定。湯布院の肥育センター進出計画は、進出企業から今回の予定地での建設を断念する旨の連絡を受け、地元の関係者には通知すると同時に理解を頂くよう説明する。



長谷川建策 議員

■由布市の不法投棄について

Q 由布市の産業廃棄物の不法投棄問題についてお聞きする。市のこの問題の監視制度、パトロール、規制の条例の考えは。

A (市長) 監視員は市の要綱に基づき15名を監視委員に委嘱している。不法投棄などを発見した場合に、市に連絡するシステムとなっている。規制の方策は国や県の法律や条例や市の条例に基づき適正な対処をする考え方である。



太田正美 議員



■由布市水道事業について

Q 湯布院町水道事業は平成13年度以降、給水区域に変更が無く、普及率がと0・6%しか伸びていない。これについて市はどうに考えているか。

A (市長) 指摘のように普及率は微増で、挿間地域と比較すると普及率が低くなっているが、湯布院地域は市の給水区域内であっても専用水道や地区水道が利用されており、市の水道事業に未加入の方も多い。水道水の安全性の観点からも、今後加入促進を進める。

Q 未普及地域に対する今後の取り組みを市はどうに検討しているか。

A (市長) 地域住民の意見・要望を十分に集約し、水道事業統合計画に於いて水源の調査、配水地計画、有収率の向上等を総合的に検討し未普及地域解消に向けて整備を進める。

Q 有収率の向上対策はどうに検討しているか。



A (市長) 水道事業基本計画において年次的に老朽管の更新工事を予定しており、配水量と有収水量の比較から漏洩調査並びに修理を行いながら有収率の向上に努める。

Q 監査意見書に水道料金の見直しについての条項があるが、どのような考えに基づいて見直しを検討しているのか。

A (市長) 今後、事業統合・未普及地域の解消・高度浄水施設の導入・老朽施設の更新等の事業を予定しており、基本計画の中で料金の検討を行いたい。

Q 現状と今後の計画はどうか。

A (市長) これまで小規模集落の役員に小規模集落対策や田舎で暮らし隊事業の紹介を行い空家状況と受け入れの是非を検討し、湯布院の奥江自治区に適した空家があつた為、平成23年1月に募集を行い4月には隊員として活動できる予定。

Q 挙間川の駅について



■由布市水道事業について

Q 現状と今後の計画はどうに検討しているのか。

A (市長) そば食堂や喫茶営業は、景気後退の影響等により本年6月末で撤退し、今後は地域振興に有効活動できるように検討していきたい。



新井一徳 議員

■マルミヤ店内店横に四差路の交差点化を

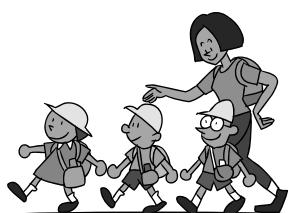
Q この場所は交通事故が多発している。約50m大分寄りに中学校生徒の通学用に押しボタン信号機があるために、事故防止策に苦慮している。地域住民からの要望を受けて、地元自治委員5名と協議を重ねた結果、四差路の交差点化を提案したい。

A (市長) この区間を含む、譲り合い

路線等の交通安全対策は、これまで国土交通省と協議をしてきたところ、大分南署等の意見を聞きながら交通事故防止への改善方法を前向きに検討するとの返答をいただいているので、議員提案の件も含めて、今後関係部署と十分検討してまいりたい。

Q この市道天神山西鶴線、通称「中学校道路」は以前に過疎計画で改良予定路線であったが。

A (総合政策課長) 中学校へは、庄内町商工会館の方からの路線改良を優先



その他に、通学路の総点検、210号線に接続する瓜生田上々渕線と由布高校下の交差点対策について質問した。

となつてるので、実際にマルミヤ店横をやるようになれば、過疎計画の事業変更等を行いながら、財源の確保が必要であれば行つていただきたいと思う。

■由布市における交通事故防止及び交通安全対策について

A (市長) 未然に防ぐために高齢者を対象とした交通安全教室を開催している。高齢者の事故防止策は。

Q 高齢者の事故防止策は。支援するための自主返納の推進を行い、支援するために来年度より写真付き住民基本台帳カードの無料交付を準備している。

Q 免許証を自主返納するということは、交通の足を無くすということである。コミュニティバスの無料回数券(3~5年間)やタクシーサービス補助券等を検討しては。

A (市長) 今後、十分に検討したい。

Q 市長は地域審議会にもつと色々な課題問題を諮問して積極的な活用をはかつてはどうか。また設置期間の過ぎた5年後、この地域審議会はどうするのか。

A (市長) 地域審議会は地域の発展のために、地域の代表の人たちが色々な課題を協議して私に意見してくれることを期待している。5年先はどのような形になつているかわからないが、やはり地域の重要な課題について話し合う場所は必要であると認識している。

■地域振興基金の使途について

Q 現在高が19億円ある地域振興基金の使途は、地域審議会に諮ることになつてはいるはずだが、5年後は審議会はない。第2の財政調整基金のようないい方をするのでは、基金本来の目的とは違うのではないか。地域振興局の予算と権限の増強にあてる考えは。

A (副市長) 合併特例が切れた後も地域振興を図つていく上で重要な資金



小林華弥子 議員

■地域審議会の活用について

Q 市長は地域審議会にもつと色々な課題問題を諮問して積極的な活用をはかつてはどうか。また設置期間の過ぎた5年後、この地域審議会はどうするのか。

A (市長) 地域審議会は地域の発展のために、地域の代表の人たちが色々な課題を協議して私に意見してくれることを期待している。5年先はどのような形になつているかわからないが、やはり地域の重要な課題について話し合う場所は必要であると認識している。

■全国首長アンケートについて

Q 共同通信社が行つた全国首長対象のアンケートで、議会改革と議会の招集権について市長はどう答えたのか。

A (市長) 今回は、「現行制度でも議会は十分に機能できる、また議会の招集権は議会に与えるべきではない」と回答したが、今後十分に議論していく

だと考へている。地域振興局の強化といふ。使途も含めて今後十分検討したい。

A (市長) 審議会への諮問と並行して市民にも案を提供して声を聞きたいと思つてはいる。

■庁舎問題について

Q 庁舎問題については、タタキ台の案ができたら市民総参加で議論し勉強する場をつくるべきではないか。

A (市長) 審議会への諮問と並行して市民にも案を提供して声を聞きたいと思つてはいる。

市政を問う

Q 湯布院地域の県内での立地条件はJR由布院駅と南由布駅、高速道では湯布院インターがあり、県南・北・西方面からのアクセスが均等で大分県の「へソ」である。加えて「ゆふいん」のネームバリューは全国的なものがある。この戦略的要素を充分に活かした

A (市長) 県立「新美術館」の建設を芸術文化の拠点として誇るにたる湯布院地域に、と誘致を願い出た。今後、他市の動向も見ながら誘致運動に拍車をかけていく。

Q 誘致に際して由布市の組織化と市民レベルの運動とを連携させることが不可欠だが。

A (市長) 総務部を担当として教育委員会との情報共有を図り、市民の皆さんとも協働した誘致活動を行なつて行く。すでに自治委員会連合会でもお願ひし、市長直属の機関としてプロジェクトチームを設け、全力で対応していく。

■県立美術館の誘致についての動きとは



溝口泰章 議員



「攻める」誘致を官民協働で行い、一次、二次、三次の間髪入れぬ戦術駆使が重要だが。

A (市長) 美術品を見るだけでなく美術館そのものを見に行きたい、と思われるような周囲の景観ともマッチした美術館を湯布院に作ることを知事にも提案している。

A (副市長) 県は年度内に着工の是非を決定し、23年度で具体的に動き始める。由布市の素案を用意して年明けにも市長と相談し早速動き出したい。

■シルバー人材センターの全市的運営を

Q 「シルバー人材センター」は由布市全域をカバーする活動を行うことになつてはいるが、庄内、湯布院の活動実績が合併以来進展していない。今後の方向は。

A (副市長) 高齢者の就業支援は行政目的のひとつである。その実現のため高齢者の活用と挿間、庄内、湯布院3地域のネットワーク拡大が必要と考える。

Q 政府の「事業仕分け」による独法整備で補助金の削減がシルバー人材センターにも適用される。財源縮小のなか、活動の拡充が一挙に求められる。公平公正で慎重かつ積極的な指導をお願いする。

ほかに「財政難時代への対応策」について質問した。



西郡 均 議員



設置した。私も107回総会より理事になつたので「九州はひとつ」とする九州市長会において議論を尽くすべきと考え、眞の住民福祉の向上につながることを確認しながら意見を述べた。

A (市長) 平成22年5月に国民健康保険法が改正され都道府県単位の広域化を推進している。大分県も広域化を円滑に進めるための検討委員会を立ち上げ協議を行つてはいる。国民健康保険制度の健全かつ円滑な運営を図るために、国の責任において万全の措置及び支援策を講じるよう市長会を通じて要望する。

Q 由布大分環境衛生組合が宮崎県新富町のし尿処理センターを視察したことには着目し、次の施設改修時に参考にしたいといつているが具体的に。

A (市長) 由布大分環境衛生組合のし尿処理センターは、20億9500万円の総事業費のうち堆肥化する汚泥処理設備に4億2000万円かかっている。さらに、毎年1600万円かけて200トンの堆肥を無料で農家に配布している。

■九州市長会について

■行政監査報告について

Q 九州市長会の「道州制推進」に対して「納得いかない」と議会答弁しているが、理事に就任してそのことを言つたのか。

A (代表監査委員) 実際には行政事務に落ち度がないか常にチェックしている。今後は報告書に載せたい。議選の監査委員を同席させるのか。

A (市長) 九州市長会106回総会で「九州府推進機構準備検討委員会」を

■12月議会で採決された請願・陳情・議員発議の結果

区分	件 名	代表 提出者	結 果
請 願	現行保育制度の拡充に関する請願書	由布市保育協議会会長 生野昭子	採 択
	平成23年度に予想される石城小学校の複式授業解消のための加配教員配置を求める請願	石城小学校PTA会長 森永善市	採 択
	TPPの参加に反対する請願	大分県農民運動連合会代表 阿部浩三	継続審査 (※1)
	市道編入に関する請願について(庄内町龍原)	龍原区自治委員 森 光明 ほか1名	採 択
	市道編入に関する請願について(庄内町大龍)	大龍東部1区自治委員 甲斐正範 ほか1名	採 択
	地方選挙における候補者に関する情報の充実等を図るための公職選挙法の改正を求める意見書の提出に関する請願	ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟 公職選挙法改正プロジェクトチーム代表 川名ゆうじ	採 択
陳 情	環太平洋パートナーシップ(TPP)協定交渉への参加反対を求める請願書	大分県農業協同組合代表理事理事長 阿部新咲	継続審査 (※1)
	湯平ふれあいホール付帯施設の整備について	湯平自治区長 後藤武文 ほか3名	趣旨採択 (※2)
継 続 審 査 分 陳 情	市有地の売却に伴う陳情について	荒木牧野組合長 立川哲雄	継続審査 (※3)
	子ども手当の廃止を求める意見書の提出に関する陳情書	日本の子供の未来を・守る会 代表 北田智子	不採択 (※4)
	安全・安心な国民生活実現のため、防災・生活関連予算の拡充と国土交通省の出先機関の存続を求める陳情	国土交通省管理職ユニオン 九州支部大分支部長 瀬戸口章蔵	採 択

※1 食糧の外国依存の影響は深刻であるが、政府の積極的な外交姿勢も理解出来る。農業政策に関する国々の具体策を見守るべきで、現段階で結論を出すことは大変困難であるため。

※2 立地上、特異な問題であることや運営上の支障は理解出来るが、まずは協議を重ね、条件整備について検討を行うことが必要であるため。

※3 内容を十分に精査する必要があるため。

※4 未だに制度が確立された状況ではないが、児童手当はすでに廃止され、子ども手当に代わる有効な支援制度がない状況で子ども手当が廃止されれば、子育て世代にとって大きな負担となるため。

議会の動き

- 10月12日 平成22年度大分県市議会議長会議員研修会(大分市)
- 10月20日 全国市議会議長会研究フォーラム(1日目)(大分市)
- 10月21日 全国市議会議長会研究フォーラム(2日目)(大分市)
- 10月24日 議会報告会(喜多里団地)
- 10月26日 平成22年第2回臨時会
- 11月13日 【第30回記念大分国際車いすマラソン大会】皇太子殿下の行啓に伴う御昼食会
- 11月17日 第5回由布市社会福祉大会
- 11月24日 平成22年第3回臨時会
- 11月25日 第5回由布市議会議長杯グラウンドゴルフ大会

由布市議会
広報編集特別委員会
委員長
副委員長
委員
委員
委員
委員
委員
久太西二郎
甲鷺佐
ノ谷斐野藤
保田郡宮川中
博正健建裕弘友
義美均治策一信
真理子

さて、第4回定例会では、議案の取り下げ、再提案などがあり、5日間会期を延長して12月27日に終了し、議会最終日に、議長より執行部に対し異例の訓戒の言葉がありました。今後とも議会は、本来の使命である行政の監視機能、チェック機能の養成に努め、市民に開かれた議論の場を目指していきたいと思います。

太田 正美

編集後記

新年明けましておめでとうございます。議会だより第21号をお届けします。今年も市民に読まれ、親しまれる紙面づくりに取り組みます。

師走の30日より降り始めた雪は、正月には湯布院で25センチほどの積雪を記録し、近年にない大雪となりました。高速道路は通行止めとなり、旅館、ホテルはキャンセルが相次ぎ、散々な正月でした。